



最近、暖かくなってきましたね。

この写真は校庭に咲く花です。何でしょう。「梅」です。

梅はもともと中国が原産で、1500年くらい前に日本に伝わりました。初めは梅の実が薬として使われていました。

今、春のお花見というと桜ですが、今から1200～1300年くらい昔、奈良時代は梅を指していました。

万葉集という、残っている中では日本で一番古い歌集があります。4500首以上の歌が載っていますが、その中で梅の花を詠んだ歌は118首あります。どれだけ梅の花が好まれていたか分かりますね。そんな中から3首、紹介します。



この写真は垂れ梅で八重咲きです。この梅の花を見ながら、歌を聞いてください。

「年のはに 春の来らば かくしこそ

梅をかざして 楽しく飲まめ」

毎年春がやってきたら、こうして梅を髪にさして、楽しく飲みましょう。

着物を着た人が、写真のような梅の花を髪にさしたら、さぞかし素敵でしょうね。

次は梅と鶯が出てきます。梅に鶯はお似合いですね。

「勅なれば いともかしこき 鶯の

宿はととはば いかにかたへむ」

帝のご命令ですから贈呈致しますが、毎年この庭に来て
この梅の枝に宿る鶯が、私の宿はどうしたかと尋ねられ
たら、どう答えたらいいのでしょうか。

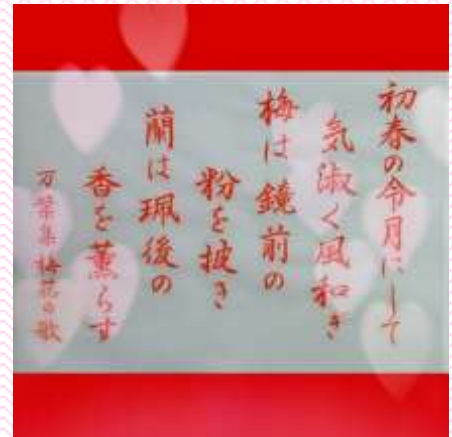


実は、御所の梅の木が枯れてしまって、立派な梅の木はないかと探していたところ、歌人の紀貫之の娘の屋敷に素晴らしい梅の木があり、移植されることになりました。梅の木がなくなるのを寂しがって娘がこの歌を詠んだところ、帝の目に留まり、梅の木を返してくれた。というお話があります。

最後は「令和」の年号の由来となった歌の序文です。

初春の素晴らしい月で、空気は澄み渡り、風は柔らかくそよぎ、梅は鏡の前のきれいな人がつけている白粉のように咲き、蘭は貴人の飾り袋の香のように薫っている。

この序文の「令月」の令と「風和らぎ」の和をとって、令和となりました。季節が春に向かってのどかで麗らかな様子を表しています。



今日は暖かくて春に近づいている感じがしますね。まだ、寒い日もありそうです。健康に
気を付けて元気に春を迎えましょう。